

あしよろ・ハードサポート通信

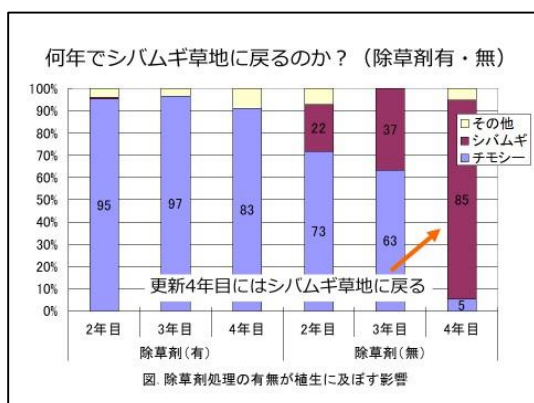
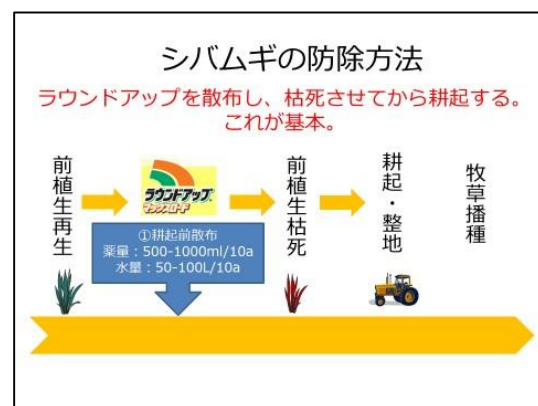
9月25日に雪印種苗(株)北海道研究農場牧草飼料作物研究グループの谷津英樹主事を講師にお迎えし、「草地の植生改善：メリット・方法・現地事例」について勉強会を開催しました。谷津主事には道東、特に十勝や根室管内の事例を織り交ぜながら、実践的でわかりやすい講義をいただきました。今号はそのスライド内容を紹介いたします。雪印種苗(株)谷津主事、足寄農協の皆さま、ありがとうございました。

◆ なぜ草地更新や植生改善が必要か？

草地に雑草が増えてくると、収量が落ちる、サイレージ発酵品質が悪くなる、といったデメリットが大きくなります。収量が少なければ通年の粗飼料が不足しますし、発酵品質が悪いと牛が食べてくれないサイレージになってしまいます。

草地の雑草をできるだけ減らし、牧草の占有割合を増やすことで、自給粗飼料の収量と品質が高まり、安定した乳生産へとつながっていきます。そのために、計画的な草地更新や植生改善が必要になってきます。

◆ シバムギの防除方法



シバムギ防除のポイントとして、左上のスライドのように耕起前に全面を完全に枯らすことが挙げられました。1番草の収穫後、再生草が30~40cmほど、長靴の高さ程度に伸びたところで除草剤(ラウンドアップ)を100倍濃度(薬量1L/10a、水量100L/10a)で散布します。コストはかかりますが、雑草を根まで殺すためにこの濃度で実施していただきたい、とのお話でした。

左下の表は、更新時の除草剤散布の有無と、その後の植生の推移を示しています。除草剤なしの畑では、4年目には完全にシバムギ草地に戻ってしまっています。

◆ ペレニアルライグラスの利用

ペレニアルライグラスの追播事例

シバムギ草地にペレニアルライグラスを追播



大樹町 2010年4月27日

ペレニアルライグラス追播による
サイレージの改善 (大樹町)

	草地	NFC%	NDF%	TDN%	Vスコア
ペレ追播	A	17.4	65.2	63	96.5
	B	16.5	65.4	62.1	93.4
	C	14.3	66.7	60.5	94.8
ペレ無追播	D	11.1	71.6	57.7	77.3
	E	10.7	71.5	56.9	81.7
	F	11.3	70.4	57.8	79.2

放牧地への追播事例 中標津町 S 牧場




追播1年目のペレ

農家コメント

- 5月初めに追播。秋にはかなり大きくなった。
- 防風林で仕切られた大牧区。牛は追播牧区に行く頻度が高い。
- 秋の草量が確保できる。毎年秋に乳量が落ちていくが今年は乳量低下が例年より少ない。
- 春早くに追播すれば1年利用(越冬できなくても)でOK⇒毎年追播すればOK

ペレニアルライグラスは、チモシーに比べ、セイン価が低く、糖度が高い特徴があります。初期生育や再生力が強く、踏まれ強いいため、放牧地に向いていますが、越冬性が劣る弱点があり、道東ではあまり活用されていませんでした。近年、この初期生育と再生力の強さを活かし、ペレニアル追播で雑草を抑え込む取り組みが注目され始め、雪印種苗社は道東の酪農家さんとのチャレンジを進めておられます。シバムギ草地にペレニアルを追播した場合の刈り取りは2回で良く、大樹町の事例のサイレージ成分値は、中段のスライドの通り、栄養価、発酵品質ともに大きく改善されています。

他にも、放牧地への追播の紹介がありました。ペレニアルは晩秋まで良く伸びるため、夏から秋の草量を確保できます。中標津町の事例では、冬枯れを見越して毎春ペレニアルを播種し、1年利用しています。なお、地力が弱い痩せた土地ではペレニアルは増えづらく、その場合は追播後3年目の秋ごろからようやく目立ち始めるのだそうです。

採草地のペレニアル追播、放牧地での1年利用など、大きなコストなくトライできる

技術だと感じました。草地の一部を使って試してみられてはいかがでしょうか。(久富)

☆10月29日(木) 19:30 から、JA 営農部の永守課長による「クミカン読み方講座」を開催します。今回は、若手の酪農経営者や後継者、新規就農希望者の方々が対象です。

★11月12月は農協さん、組合員さんがご多忙の時期とのことで、現時点では勉強会の予定は組んでいません。1月以降、また勉強会を再開していきたいと思っています。

☆11月5日(木)～6日(金)に帯広市民文化ホールで「北海道酪農技術セミナー」が開催されます。当日はハードサポートの村上も「乳牛栄養理論の進化とその現場活用」と題した講演を行います。

..... ☆皆さまのご参加をお待ちしています☆